

<STEP2 事例 優先度の高い環境行動の実施>

コスト削減の取り組みが環境対策へ（株式会社もり）

取材日：2025. 3. 25

Q 取り組みの背景・きっかけ

A

- ・工場ボイラーを年次点検した業者から、ボイラー設備の劣化を指摘され、高効率タイプのものに更新した方がコストを抑えられると勧められた。
- ・環境問題への取組への予算をとっていたわけではなかったが、経費節減に努めた結果が「環境対策」につながった。また、漬物は保存食の考え方で作られており、野菜を余すことなく使うので、結果的に SDGs の取り組みにも結び付いている。



Q 取り組みを進める上で工夫したこと・苦労したこと・利用した施策

A

- ・亀岡工場のボイラーを更新した結果、灯油の使用量に比べて都市ガスがは使用量が 1/3 になった（省エネ補助金/環境共創イニシアチブ、京 VER 創出促進事業補助金/京都知恵産業創造の森）。
- ・蛍光灯から LED 照明への更新は、長期的なランニングコストを考えたときにペイできると算段してから進めた。CO2 削減のための複数の補助金等（京都市中小事業者省エネモデル普及拡大事業・京都市省エネ照明・空調設備整備事業補助金/いずれも京都市）を活用し数年かけて進め、電気代を前年比 30%削減することができた。今のようにエネルギー価格が高騰している状況での効果は絶大。補助金の申請は煩雑だが、どれも同じような作業なので、2回目以降は事務作業の負担は軽減された。
- ・バイオ生ごみ機の導入には、「京都府 3 R 技術開発等支援補助金」（京都府産業廃棄物 3 R 支援センター）を活用。導入前と比べ、生ごみ排出量は 90%削減となり、ごみ処理費用も抑えられ、これまで運搬時や焼却時に排出していた CO2 排出量も削減できている。
- ・本社と亀岡工場の屋上には売電する目的で太陽光パネルを設置（京都府未利用地活用再生可能エネルギー導入促進事業補助金）。太陽光パネルの設置は建物への直射を防ぐための省エネ効果もある。



注）青文字は、過去に実施されていた補助金です。

Q 取り組みの内容・成果とメリット

A

- ・関係団体等の取材やメディアへの掲載を通じ当社の SDGs の取り組みを知ってもらう等、企業ブランドの向上につながっている。また、新卒採用は多くないが、ホームページに SDGs コーナーを開設したことをきっかけに、学生にも当社に興味をもってもらっていると感じる。

株式会社もり（代表取締役社長 森 義治）
 京都市右京区、従業員：85人
 事業内容：京野菜の栽培、京漬物の製造、販売
 (https://kyoto-mori.co.jp/sdgs)